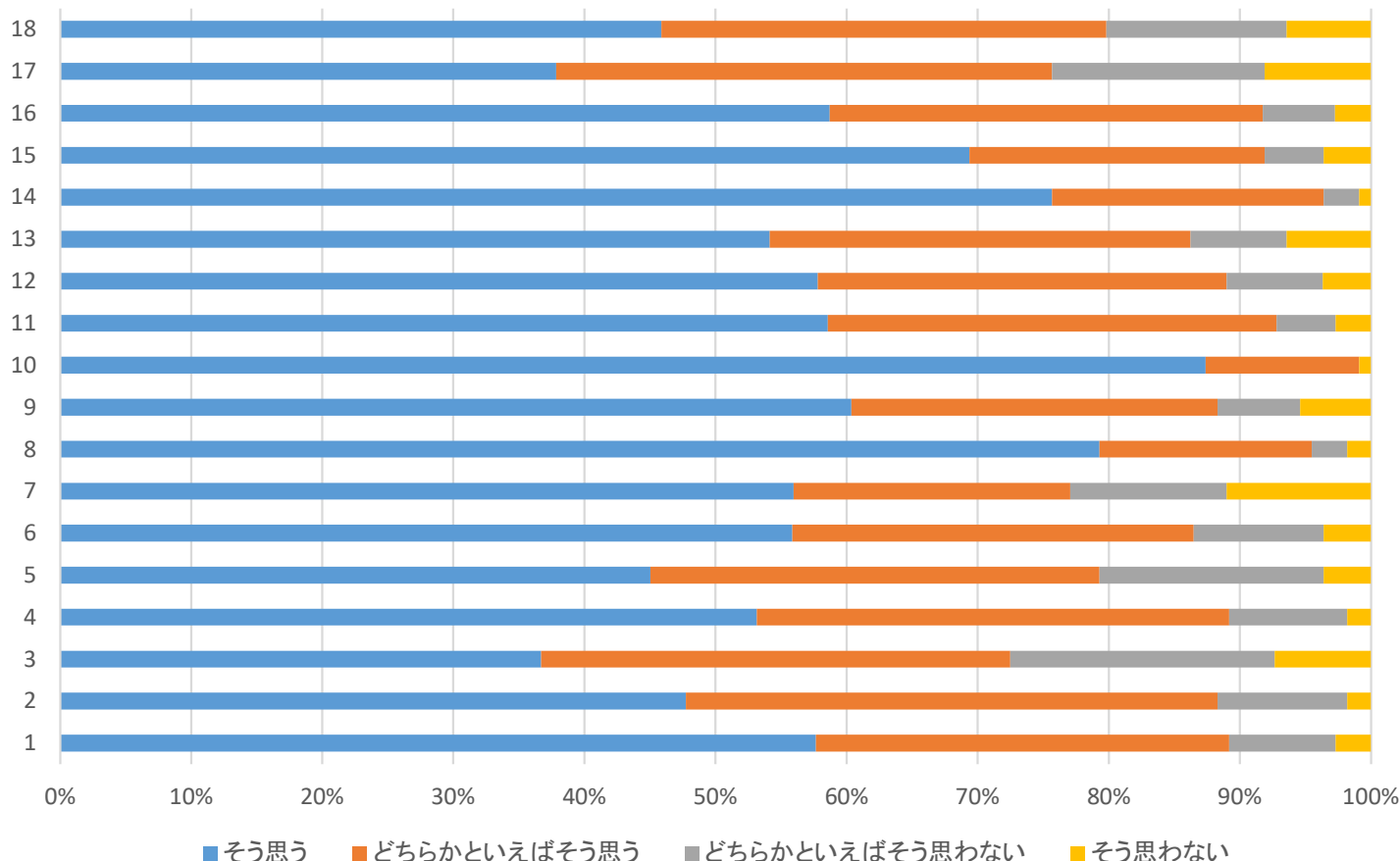
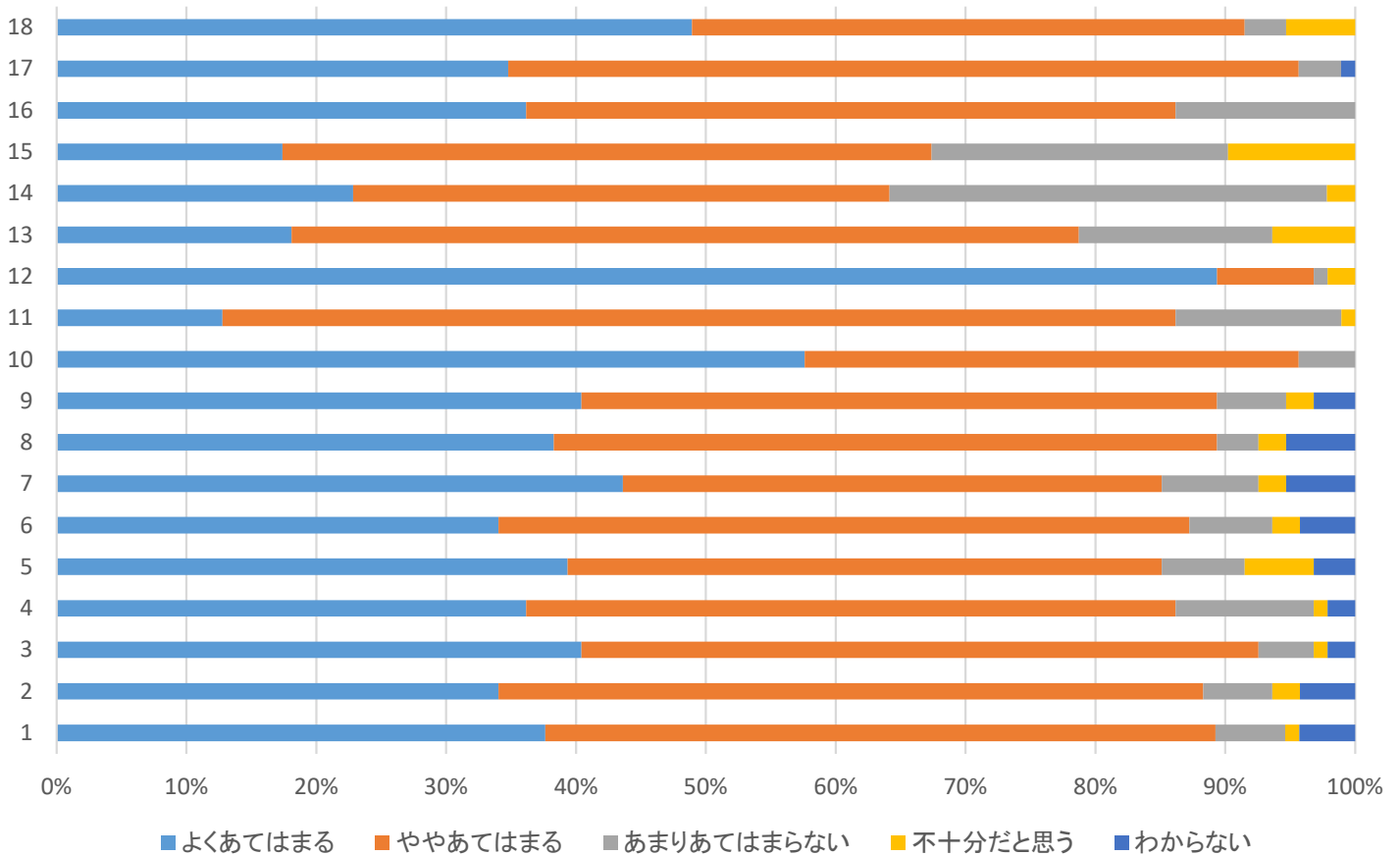


R6 久勝小学校をよりよくするためのアンケート集計（児童）



1	学校へ来るのが楽しい。	58%	32%	8%	3%
2	学習の課題に進んで取り組んでいる。	48%	41%	10%	2%
3	授業中、自分の考えを発表することができる。	36%	35%	20%	7%
4	難しいことでも、あきらめないで挑戦している。	53%	36%	9%	2%
5	話をしている人の方をきちんと向いたり、うなずいたりしながら、しっかりと話を聴いている。	45%	34%	17%	4%
6	授業中、ペアやグループで意見を言ったり、聴いたりすることができている。	56%	31%	10%	4%
7	休み時間は外へ出て遊んでいる。	55%	21%	12%	11%
8	先生は、困ったときに話を聞いてくれたり、まちがったことをしたらきちんと注意してくれたりする。	79%	16%	3%	2%
9	自分は、いじめや差別のない学校や学級にしようとしている。	60%	28%	6%	5%
10	地震や火事などの時に、どうやって逃たらいいかわっている。	87%	12%	0%	1%
11	きまりを守って生活できている。	59%	34%	5%	3%
12	目標をもって生活することができている。	57%	31%	7%	4%
13	自分にはよいところがある。	53%	32%	7%	6%
14	友だちを大切にすることができている。	76%	21%	3%	1%
15	困ったことがあったとき、相談できる人がいる。	69%	23%	5%	4%
16	先生や友だち、地域の方へのあいさつができている。	58%	32%	5%	3%
17	自分は、忘れものをせず、勉強の準備ができている。	38%	38%	16%	8%
18	むだな話をせず、そうじに集中して取り組んでいる。（無言清掃）	45%	33%	14%	6%

R6 久勝小学校をよりよくするためのアンケート集計（保護者）



1	学校は、学校教育目標に向かって努力している。	37%	51%	5%	1%	4%
2	学校は、地域や家庭と力を合わせて、子どもの教育を進めている。	34%	54%	5%	2%	4%
3	学校での様子や教育活動などを、懇談や学級だより、ホームページなどによって知ることができる。	40%	52%	4%	1%	2%
4	学校は、子どもの実態をふまえ、学力向上を目指して指導をしている。	36%	50%	11%	1%	2%
5	学校は、子どもたちに生命を大切にする心や人権を尊重する意識や態度を育てようとしている。	39%	46%	6%	5%	3%
6	学校は、道徳心や社会のきまりを守る意識を育てようとしている。	34%	53%	6%	2%	4%
7	教師は、子どもたちの悩みや相談に親身に対応しながら、指導している。	44%	41%	7%	2%	5%
8	学校は、子どもの実態をふまえ、体力向上を目指して指導をしている。	38%	51%	3%	2%	5%
9	学校は、交通安全や大災害から身を守る姿勢や知識など、安全教育に力を入れている。	40%	49%	5%	2%	3%
10	お子さんは、楽しく学校に登校している。	56%	37%	4%	0%	0%
11	お子さんは、家庭でルールやマナーを守り、規則正しい生活を送っている。	13%	73%	13%	1%	0%
12	お子さんは、朝ご飯を毎日食べて登校している。	89%	7%	1%	2%	0%
13	お子さんは、場に応じた言葉遣いをし、気持ちのよいあいさつをしている。	18%	61%	15%	6%	0%
14	お子さんは、進んで家の手伝いや自分でできる役割をしている。	22%	40%	33%	2%	0%
15	お子さんに学習する習慣が身につくような働きかけをしている。	17%	49%	22%	10%	0%
16	学校でのことや毎日の出来事などの話が聞けている。	36%	50%	14%	0%	0%
17	学校行事に参加したり、担任の先生と連携がとれたりしている。	34%	60%	3%	0%	1%
18	学校が「働き方改革」を推進する必要性を理解している。	49%	43%	3%	5%	0%

令和6年度 学校評価総括表

阿波市立久勝小学校

学校教育目標 一人ひとりを大切にし 知・徳・体の調和のとれた たくましく人間性豊かな児童の育成

めざす子ども像 進んで学び 仲間と深め 自信をもって行動する児童の育成

A・・・十分 B・・・おおむね十分 C・・・やや不十分 D・・・不十分

総括表

評価項目	考察(成果と課題)	次年度への改善点等	関係者評価
学校教育	<p>学校は、子どもたちの規範意識や生命を尊重する態度を育て、たくましく人間性豊かな児童の育成に努力していると、9割近くの保護者から肯定的な回答をいただいた。さらに、教育活動の充実に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていく必要がある。</p> <p>「働き方改革」の必要性に関する保護者の認識は92%と、昨年より12ポイント増加している。働き方改革の推進が教育の質の向上につながることへの理解が進んできたと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多面的な視点からの改善 ・ 働き方改革の推進による教育の質の向上 	A
学級経営	<p>「学校へ来るのが楽しい」と回答した児童は90%、「先生は、話を聞いてくれたり、注意したりしてくれる」と回答した児童が95%と、学級内の居心地の良さや安心して学んでいることが感じられる。一方、「楽しく学校に登校している」と肯定的に回答した保護者は93%であるが、「教師は、子どもたちの悩みや相談に親身に対応しながら、指導している」ことへの肯定的な意見は85%にとどまっている。不十分であると考え保護者の方々がいることに対して、教職員一同がその声に耳を傾け、児童一人一人に寄り添った指導や温かな支援に努めていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ HP等で情報発信 ・ 児童に寄り添った指導や暖かな支援 	A
地域家庭との連携	<p>「学校は、地域や家庭と力を合わせて、子どもの教育を進めている」に対して、保護者からの肯定的な回答が88%と昨年より1ポイント減少した。学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、今後も、コミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域が教育のビジョンを共有し、連携を重視した継続性・一貫性のある教育活動を行っていききたい。</p> <p>また、「懇談、学級だより、HPによる連携・情報発信」においては肯定的な回答が、92%と昨年より11ポイント上回った。HPや学年だより等で、児童の活動の様子を積極的に発信している結果だと考える。「行事への参加・担任との連携」においては、肯定的な回答が94%と、昨年同様の評価を得ている。これからも、PTA組織の見直しや行事等の精選と同時に、教育効果を高める工夫を凝らしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ CSの有効活用 ・ 配布文書、メール、HP等の情報発信の充実 	A
体力向上	<p>「学校は、体力向上を目指して指導している」に対して、保護者から肯定的な回答が89%と昨年より3ポイント増加した。しかし、体力向上への取組が十分ではないと捉える保護者も一定数見られる。そこで、体育の授業においてはスモールステップを大切に、誰でも運動の楽しさを感じる工夫をすることで、休み時間や家庭での継続的な活動につなげていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰でも運動の楽しさを感じる工夫 ・ 体育学習の充実 	B

評価項目	考察(成果と課題)	次年度への改善点等	関係者評価
学力向上	<p>「学校は、学力向上を目指して指導している」に対して、保護者からの肯定的な回答は86%であり、昨年度より7ポイント増加している。児童の回答では、「課題に進んで取り組む」が89%と、昨年より3ポイント増加しており、児童の主体性が窺えた。授業や教育活動の中でのGIGA端末の活用が一層進んだことも要因であると考ええる。今後は、情報モラル教育にも力を入れながら、学びのコミュニケーションツールとしてのICT機器の活用について研修を深め、さらに分かりやすい授業づくりを行っていききたい。</p> <p>家庭で「学習習慣が身につくような働きかけをしている」についての保護者からの肯定的な回答は66%であり、昨年より16ポイント下回った。また、約3割の家庭では、サポートが難しい状況にある。このことは、児童の「忘れ物をせず、学習の準備ができる」の肯定的回答76%であることにもつながっていると考えられる。学力の向上を支えるためには家庭とのさらなる連携が欠かせないため、より積極的な啓発を進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • GIGAスクール構想におけるタブレットの有効活用 • 学力向上実行プランの改善と実践の充実 • 家庭学習のサポート 	A
生徒指導	<p>「きまりを守って生活できている」「友だちを大切にすることができている」と回答した児童は90%以上と評価が高くなっている。信頼関係をベースにした中で、規範意識を高められるよう、関係機関と連携を図りながら、ポジティブな行動支援の取組を継続している成果だと思われる。</p> <p>「お子さんは、進んで家の手伝いや自分でできる役割をしている」に対して、保護者の肯定的な回答が62%で、昨年より16ポイント減少した。家族の一員としてその役割を果たす機会がもてるよう、学校と家庭で連携した指導を継続していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 関係機関との連携 • SWPBSの実践 • 家庭への啓発 	A
安全教育	<p>89%の保護者から、学校は安全教育に力を入れているという回答をいただいた。また、99%の児童が、地震や火事などの時に、どうやって逃げたらいいかわかっていると回答をしていることから、児童にとっても保護者にとっても、学校が安全なところであるという意識があると言える。自分の命は自分で守ることや犯罪に巻き込まれないように日頃から気を付けることなどを継続して指導していくとともに、その情報を発信することで、地域・保護者の理解が一層得られるよう取り組んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 計画的な訓練や安全教室の実施 • 安全教育の取組の情報発信 	A

学校運営協議会委員からのご意見

- 子どもたちが素直で一生懸命に学習に取り組んでいる姿を多く目にした。この素直さ、良くなりたいと思う心・姿勢を大切に育てていただきたいと思う。
- 先生方が、子どもに正面から向き合っているのに心動かされた。
- 5年生のあいさつ運動のおかげで、大きな声で気持ちのよいあいさつができています。
- 子どもたちが主役の運動会は、半日だったがとてもよかった。
- 人間関係が難しくなり、先生方はご苦労されていると思う。問題を一人で抱え込まず、みんなで共有して少しでも楽になる方向でやってほしい。
- 一人で自転車に乗るのは4年生からで、校区内のみというルールが形骸化している。
- こども園と小学校、小学校と中学校が連携する機会を増やしてほしい。
- 登下校の車送迎が多く、体力の低下や肥満が心配。